

評価対象事業一覧

総務分科会

評価対象事業		多摩市自治連合会補助事業		
当初予算額		3, 0 3 6 千円	決算額	2, 8 9 2 千円
最終補正後予算額		3, 0 3 6 千円		
事業概要		多摩市自治連合会に対する補助金交付事業 地域コミュニティの円滑な推進と住民自治の発展に寄与することを目的として、多摩市自治連合会が実施する事業に対し、補助金を交付した。		
評価対象事業		集会所管理経費		
当初予算額		6, 9 9 2 千円	決算額	5, 6 2 0 千円
最終補正後予算額		6, 6 5 5 千円		
事業概要		41 集会所の維持管理経費 地域コミュニティの拠点である集会所の修繕、諸工事及び植栽等の管理業務委託を行い、維持管理に努めた。		
評価対象事業		市民協働推進事業		
当初予算額		4 4 2 千円	決算額	4 3 9 千円
最終補正後予算額		4 4 2 千円		
事業概要		「市民活動情報検索サイト」の管理運営等、市民が気軽に市民活動へ参画するための情報提供等を行った。東京都や多摩ボランティア・市民活動センター等との関連する事業の情報共有や連携を進めた。		
選定理由		市内各地域において、少子・高齢化や地域のつながりの希薄化が進行する中、住民参加による防災力の強化が求められており、各地域の自治会・管理組合（以下「自治会等」という。）の役割は一層重要となっている。 一方で、自治会等においては、役員の担い手不足や加入者数の減少が進み、特に規模の小さい団体では解散の危機に直面している。 市では現在、協創推進室を中心として、こうした課題の解決に向けた地域プラットフォームの構築を推進しているところであるが、その実効性を高めるためには、これまで地域コミュニティの中核を担ってきた自治会等をどのように位置付け、どのように支援していくのが重要な課題である。 また、自治会等への若年層やいわゆるライト層の参加促進や、自治会等を含めた新たな地域コミュニティの形成手法についても検討が求められる。 このような問題意識のもと、「多摩市自治連合会補助事業」及び「市民協働推進事業」について、令和7年度の取組の役割及び成果を調査・分析し、予算の執行が適正であったかを評価する。 併せて、自治会等の重要な活動拠点である集会所の機能の有効活用という観点から、「集会所管理経費」についても検証することとしたい。		

健康福祉分科会

評価対象事業		発達障がい児（者）相談支援事業	
当初予算額	27,465千円	決算額	23,231千円
最終補正後予算額	23,428千円		
事業概要	発達障がい児（者）に関する総合的な相談を実施し、関係機関との連携及び調整を行った。保育所・幼稚園等へ専門相談員を派遣し、就学前から早期発見と早期支援を行った。また、発達障がいへの理解促進・啓発の講演会及び多摩市版ペアレントプログラムや親の会を実施した。		
選定理由	近年、発達障がい児（者）と診断される件数は増加傾向にある。 発達の特性等により、社会的な関わりや行動、学習などに困難を感じる人が増えており、当事者は生きづらさを抱えるとともに、そのご家族においても不安や戸惑いを感じるケースがあるとされている。当事者が早期に社会で適応していくためには、発達特性を早期に把握し、個々の状況に応じた適切な支援につなげることが必要であり、そのためには相談しやすい窓口の整備と当事者やご家族に寄り添った支援体制の充実が重要となってくる。 令和7年度の事業評価として、専門家を含めたスタッフの体制や、どのように関係機関と連携し切れ目のない支援を行っているかなどを評価する。また今後予定している発達支援センター開設に向けて、その支援の充実が図られるために、これまでの課題の整理を行うとともに、求められる機能を精査する。		

生活環境分科会

評価対象事業		街路樹等維持管理経費	
当初予算額		3 6 1, 8 9 5千円	決算額
最終補正後予算額		4 2 0, 6 3 2千円	
事業概要		街路樹の維持管理において、定期的な樹木剪定や低木刈り込み、除草、市民要望等による高木伐採など支障改善を行うと共に、道路アダプト団体への花苗配布等を行った。また、街路樹診断結果に基づき、乞田川及び永山さくら通りのサクラを伐採した。	
選定理由		老木化による倒木や根上がり、落ち葉等の課題に対し、安全性と財政の持続可能性の両面から街路樹の管理手法を検証する必要があるため本事業を取り上げた。 街路樹の安全性については、街路樹が持つ景観、防災、環境保全などの多面的な機能とあわせ、良好な住環境の維持と安心・安全な道路通行を両立するための事業となっているか、また、財政の持続可能性については、近年、樹木の大木化で管理コストが増大しており、現行方式の維持管理では財政的に限界があるため、安全基準や優先順位を明確化し、限られた財源で効果的な管理がなされているか、という視点で評価したい。 その上で、街路樹の維持管理手法として、公園樹木との管理一元化による効率化や課題が市において検討されているが、分科会においても、将来的な経費削減を図るという観点から事業を精査したい。	

子ども教育分科会

評価対象事業		通学路安全対策事業	
当初予算額	15,419千円	決算額	10,447千円
最終補正後予算額	15,218千円		
事業概要	市立小・中学校の通学路における児童・生徒の安全を図るため、交通量が多い幹線道路等に通学路安全整理業務従事者を配置した。通学路の改善要望箇所の安全点検を実施し、必要な対策を行った。また、保護者や地域等による見守り活動に使用する消耗品、通学路標識表示板、道路標示、横断幕等を購入した。小学校通学路に設置した防犯カメラの維持管理に係る電気料金、電柱共架料、保守点検委託費用の支払いを行った。		
選定理由	令和5年度の途中から通学路安全整理業務従事者を配置している8箇所のうち4箇所を（公社）多摩市シルバー人材センターから民間警備会社に委託を変更し、令和6年度から残りの4箇所も民間委託に変更となった。全面的に民間委託化したが、それに見合った効果をあげているか。また、通学路に設置されている防犯カメラの更新や増設について今後の展開をふまえた費用対効果はどうかを確認する。子どもの安全を守るため、必要な対策になっているのかという視点で調査・検証する。		